淋しく強く生きぬ可く 不香の花の小夜嵐 なの本に散る かままました。 かままました。 かままました。 かまままました。 かまままました。 かまままままます。

手で 稲ね の峯に響くかな

送る梅花の芳せに

故こ 山ばん 月の面ゆく鳥の影の影のも、おもしとり、かげ 草木悲歌を奏ひつつ の空に微み行く

きのふぞ移る秋風に

緑水我を弔はんりょくすいわれ とむら 青山我が有に帰せいざんわれいう 赴^ゅく 駄鞭荒野に打ふ や皇土の城の外と りて Ù

> 仰ぐみ空にまたたける 動きまません 夢中原にさまよひて 基に誓ひし丈夫の 国に誓ひし丈夫の 五.

北極星のかげ清し

三溝清美君 作曲 作歌

外山

. 徳次郎 君